

# 男性介護ネット通信

No.10  
2013.8

ひとりじゃない。  
生きる勇気がわいてきた。



2013年8月15日発行  
「男性介護ネット通信」  
通巻10号

発行●  
男性介護者と支援者の  
全国ネットワーク  
<http://dansei-kaigo.jp/>  
[info@dansei-kaigo.jp](mailto:info@dansei-kaigo.jp)

## 「ケアメン」プロジェクトの さらなる展開をめざして

～男性介護ネット第5回総会が開催される～



### 去

る三月二〇日（日）に京都市・立命館大学衣笠キャンパスにて「男性介護ネット第五回総会」

が会員等一五〇名の参加のもとで開催されました。

近年、男性介護に関わる社会の関心が高まってきており、「ケアメン」という言葉が報道されることも増えてきました。しかし、他方では安心できる場であるはずの施設において職員による虐待事件が後を絶たない状況もあり、介護者からの発信がますます問われる環境にあるといえるでしょう。

このような環境の中で、男性介護ネットは、二〇一二年に「介護退職ゼロ作戦」をスローガンにして、一月一日の介護の日を中心に一〇月～十一月に北は北海道から南は九州まで全国津々浦々で男性介護や仕事にまつわる交流会やワークショップなどのキャンペーン協賛企画を開催しました。他にも介護と仕事の研究や第四集となる介護体験記を発行するなど、精力的な活動内容が報告されました。また、いままで唯一会員のいなかった沖縄県から待望の会員加入があり、男性介護ネットは名実ともに六〇〇人を超える全国組織となりました。

二〇一三年度は、前年度までの方針を継承し、さらなる男性介護者の組織化を推進するため、地域での男性介護者の居場所として男性介護者のつどいや会がどのような運営状況にあるか実態調査の実施を予定しています。また、二〇一三年度と同様に介護の日を中心とした「介護退職ゼロ作戦」のキャンペーンも予定されており、これらの活動方針案が参加した会員のもとで承認され総会は幕を閉じました。



# 集まろう 全国100万人の男性介護者！

## 映画化される認知症介護漫画の著者が語り、 リレートークで介護の現実を語り継ぐ

総会と同時刻に、立命館大学前の衣かけの道を走り去った京都マラソンも終わった午後の時間、『ペコロスの母に会いに行く』の著者、岡野雄一さんの記念講演が始まりました。「ペコロス」とは小さめの玉ねぎのことで、岡野さんの頭部がこの玉ねぎに似ていることからの命名だそうです。聞き手の西日本新聞編集委員の木下悟さん。岡野さんが少しずつ忘れていく母の日常を自費出版した本を書店で見つけ、西日本新聞社で出版したのです。

スクリーンに漫画の一場面が映し出され木下さんの質問に岡野さんが答える形式の講演会でした。ほのぼのとした絵の中から、忘れていく母の現実と、そのとんちんかんさに怒り、でもわびしく切なく、母は母であることをいくどとなく教えてくれることを話す岡野さんでした。木下さんとの軽妙な掛け合いも楽しく聞き入りました。

恒例のリレートークの始めはDVD持

参で参加の兵庫県の咲咲館の井上眞一郎さん、京都府の山内輝昭さんが主催するつどいや参加者の現況を紹介しました。同伴で参加の宮崎県の河野丈一郎さん、大阪府の外山務さんが近況を語りました。宮城県の太田秀雄さん、ブロック世話人の福岡県の岡村敏春さん（九州）、山梨県の清水昭二さん（甲信越）が続ぎ、最後は富山県の限界集落から参加の谷口正尚さんが、考案した「ジョキレス・ジョキング」体操を持参の衣装で着飾り、スマホで音楽をかけながら舞台上で演じました。



講演「介護退職ゼロ作戦」の  
橋口恵子先生（3月9日出）

九州ブロック  
KYUSU

## 男性介護者と支援者の全国ネットワーク 九州ブロック交流会 in 福岡（第3回）

今年で3回目となった九州ブロック交流会。「お久しぶり、元気だった」となじみの方にあいさつを交わす人、初めての参加で少し戸惑った表情で席を探す方。受付は「認知症の人と家族の会の福岡県支部」の女性世話人さんが担当してくださり、和やかな雰囲気ではじめました。準備にあたった九州ブロック世話人の岡村敏治さんは、「後半のグループに分かれての交流がゆったりできるよ」と、会場をこれまでより広めにしました」と開会あいさつしました。

第1部は「ケアメン・コミュニティ“男性介護者ネット”の今とこれから」と題して、津止正敏立命館大学教授（男性介護者ネット事務局長）が講演をしました。男性介護者の現状や新しい介護サービスの状況、退職せず介護しながらも働き続けるために必要なことを、企業で先駆的に取り組まれている事例などが紹介され、希望が見えたお話でした。

第2部は九州各県の取り組み状況を、みなさんがご自身の介護状況とともに報告しました。主な報告者は宮崎県の河野丈一郎さん、福岡県糸島市の山本秀洋さん・福岡市の西田勝樹さん、塩田貞夫さん、大分県の橋口純一さん、熊本県の堀本平さん。遠く埼玉県からの金澤安洋さん、兵庫県のスマイルウェイの西山良孝さんも登壇しました。

最後のグループ交流会は、おむつ補助申請方法を聞く方、介護のためにホームヘルパーの資格を取得したことや、交流することの大事さ、つどい参加者が少ないので電話で参加呼びかけしているなどの報告がありました。津止事務局長は想像を絶する介護状況ではあるが、みなさんが生活を続けながら介護している実態を社会に知らせるといふ、小さな窓ではあるがこじ開けていきまじょうと、エールを送りました。



各地の  
交流会報告



長野県  
NAGANO

## 男性介護者と支援者の全国ネットワーク交流会 in 長野

今年も上田城跡のけやき並木のライトアップ紅葉まつりが始まった11月3日（文化の日）に、上田温泉ホテル祥園にて開催されました。クローズアップされる機会が多くなった「男性介護」、マスコミ関係も数社取材に来られるなか、13時より開会となりました。

第一部の基調講演は「孤立しない介護の在り方～社会とつなぐ仕組み～」というテーマで、NPO法人 介護者サポートネットワークセンター・アラジン理事長の牧野史子氏に語っていただきました。「ケアラー」とは…、全国調査によるその実状から浮かび上がる様々な問題点の解説や、「ケアラー支援センター」設置などの提言、各地での介護者支援の取り組みや情報を「ケアラズカフェ & ダイニング アラジン」の具体例を織り込んでの、講演でした。

第二部は、恒例の介護当事者によるリレートーク。はるばる岡山県からの参加者を皮切りに、山梨県、東京都、埼玉県、そして長野県内でも各地から出席の10数名の方々

が、体験談や要望、提案など、熱い語り が次々とパスされ、新しい発見や共感が皆さんの表情に表れ、時間の制約がなければ、リレーは続いていてほしいです。



17時から交流会。互いの顔の見やすいそれぞれの円卓で、時間の流れとともに話題も広がり、また、さらに熱い想いを語る場面などが見られました。帰路の関係で、途中退席の方々もおられましたが、3時間の時は瞬く間に過ぎ去った感がありました。

限られた時間のなか、語りきれなかった部分は、また次の機会、またひと回り大きく発展した場で披露されることと思います。（シルバーバック会員 佐々木徹）

北陸ブロック  
HOKURIKU男性介護者と支援者の全国ネットワーク 北陸ブロック結成フォーラム  
「初対面の人たちが旧知の友のように、時間を過ぎても発言」

和やかな雰囲気の下、北陸三県の方々とは有意義な2時間を過ごせました。

津止正敏立命館大学教授、西山良孝スマイルウェイ代表の講演に皆さん熱心に耳を傾けておられました。また、キリン福祉財団 山形伸次常務理事もお越して、ごあいさつを頂きました。

ご講演のなかで西山さんが、新作の男性介護者が語るDVDを上映され、「認知症が進んで言うことをきかない相手に平手打ちをしたことを悔いる」と語る場面では、皆さん真剣なまなざしで見入っておられました。

講演のあと参加者にマイクを回すと、最初は皆さんおとなしかったのですが、1人が口火を切ると1人2人と

自ら手を挙げて話し出して、終盤は結構盛り上がりました。予定より15分ほど終了時間がオーバーしてお開きの告知をしましたが、誰も席を立たれる方もなく、初対面の方々がるまで旧知の友のように和気あいあいと話されているのを見るにつけ、北陸ブロックを立ち上げて本当に良かったと思いました。

参加者の方々の感想は一概に好意的で、「2年前に介護が終わった。今、大変な思いをしている人たちのための一助になりたい」と富山県在住77歳の方の語りに頭が下がりました。北陸ブロックは、これから本番です。

（北陸ブロック世話人 平尾 隆）

兵庫県  
HYOGO

## 「男の介護フォーラム in ひょうご」を開催しました。

平成23年11月1日。宝塚市ソリオホールにて、兵庫県下の男性介護者支援団体「男性介護者支援ネットワークひょうご」主催、(公益財法)キリン福祉財団の助成を受け「男の介護フォーラム in ひょうご」を開催しました。第1部は「介護の思いをぶっちゃけよう!」と題し10名ほどで7つのグループに分かれてのディスカッション。

第2部は今話題の映画「毎日がアルツハイマー」上映とその関口祐加監督を招き、宝塚市「ほっこり庵」代表西山良孝と、三田市「ぼちぼち野郎」代表竹中孝夫氏と、関口監督の友人中川高志氏の4人でトークを行いました。

監督からは、いきなり「実は3月から、母はお風呂に入っていないんです」という話に会場はビックリ。さらに「母

に合うデイサービスを見つけるため、何十か所も探しました。でも、設備や内容よりも母に合うデイサービスはイケメンがいるかどうかなんです」という話にヘーと感心したり、とにかくそれまでの介護の常識が次々と覆されていきます。しかし、終始一貫していたのは「母の気持ちを大切に」という姿勢。ともすれば、いつの間にか介護する私たちが自己満足のために押し付けの介護になってしまうことへの警鐘を、驚きと笑いを織り交ぜながら、鳴らされている、とても意味深い映画とお話でした。

（宝塚市「ほっこり庵」代表 西山良孝）





# 会員からの お便り



## 男性介護の 実態を知りたい

▼神奈川県 Mさん・両親と妻を介護中

四人住まいの二世帯住宅です。一階には、父九五歳で要介護五、母八六歳要介護二、二階には、私と六〇歳若年性認知症要介護五の妻と二人です。

入院、施設を使いながら、一人で三人の介護をしています。

男性介護の実態について知りたいと思います。

## 二三年間、家庭での介護

▼青森県 Aさん・祖父母、両親を看取り終え

祖父から始まり、二〇一二年に母が亡くなるまで二三年間介護を要する家族（計四人）と生活しました。そのうち三人は身障者でもありました。

祖父は寝たきり（寝かせきり）、祖母と父は最期まで比較的元気でしたが、母は認知症が進行しつつありました。

一五年前は五人家族でしたが、今は一人暮らしになりました。正直、莫大な費用も掛かり随分

と批判もされましたが、私個人は家庭での介護も決して悪くはなかったと今でも思っています。

## 老いていく親、 どうしていく…

▼京都市 Uさん

一人暮らしの実母（七八歳）が老いていくにつれ、今後どうしていくか考えています。子は私一人で、私も勤務があるため、一人で抱え込まずに、今後介護等に取り組んでいきたいと考えています。物心両面でネットワークには期待しています。

## 息抜きの方法は

▼北海道 Hさん・妻を介護中

妻は五年前脳溢血で倒れ一命は取り留めましたが、左半身まひ、嚥下障害、構音障害の他、遂行機能障害や注意力障害、半側空間無視等の障害を抱え自宅介護となりました。子ども（娘三人）は既に嫁ぎ、二人は遠方（東京と愛知）で、近くに嫁いだ娘が月に一回子どもを連れ手伝いに来てくれる状況です。

これまで介護保険に助けられ何とかやってきましたが、障害の回復の見通しや病気の再発などわからないことが多く、また介助方法や私の息抜きの方法等について意見交換をしたく思っています。

## 自分の時間を犠牲に、 ストレス

▼神奈川県 Iさん・母を介護中

四〇代半ばから介護の仕事に関わってきました。人生の先輩から多くの学びをさせていただき、介護福祉士、ケアマネの資格も取得しました。現在は市の介護保険課の嘱託員として働いております。独身のため、実母を一人で見ていますが、認知症が日に日に進んでおります。そろそろ介護保険の世話になる必要も出てきました。仕事で接する認知症の方とは違い、母に対しては肉親としての複雑な感情が入り交じります。しかし介護の仕事をしてきた分、ある程度の平常心を保っていると思っております。幸いにも、ひどい周辺

症状は今のところ見られていません。正直な所、仕事に力を注ぎたい気持ちも残っています。自分の時間を犠牲にしなければならぬ状況にストレスを感じています。今後の自分の人生を見つめ直すためにも入会を希望致します。よろしくお願いいたします。

## つい強い言葉になる

▼山梨県 Oさん・妻を介護中

妻がパーキンソン病と診断され、本人はもとよりわたくしも衝撃を受けました。病状の進行は薬で遅らせることができるけれど、回復は見込めない病気。徐々に病気も進行し、家事も十分にこなせなくなりつつあり、わたくしも、慣れないながら台所に立つ時間が多くなり、簡単な料理も妻のアドバイスを受け挑戦しております。

適度な運動を勧めていますが、わかっているといつてなかなか体を動かそうとはしません。気持ちの余裕のある時は軽くうけ流すようにしていますが、つい



強い言葉になることがあり、このままの繰り返しが続くことを心配しております。ただし介護のノウハウを身に付けたく入会を希望いたしました。

## 介護のかたわら、吟詠とカラオケのコラボショーボランティア

▼兵庫県 Nさん・伯母を看取り終え、母を介護中

早いものでもう四周年を迎えるのですね。私は一周年記念式典から加わりました。「男性介護者一〇〇万人のメッセージ・体験集」には第二集から寄稿し、今回の第四集まで連続三回の掲載を果たしました。

伯母（故人）と母を介護する傍ら、出演ボランティアとして施設などへの慰問活動を続け、一端の支援者も気取っています。また昨年は、「介護と仕事の両立」をテーマにしたフォーラムにも発表者で参加。同テーマで特集を組んだ日経新聞の取材も受ける等々。結構、自分の中の本会繋がりが広がっているなあと感じていきます。

私が住む地域で月一回開催されている「介護者リフレッシュ教室」への参加回数も重なり、「男性介護者と支援者の全国ネットワーク会員」と刷り込んだ名刺を配り、同ネットで手に入れた資料・書籍を情報提供と称し供覧するなど、グループメンバーでは一歩先んじる存在をアピールして悦に入っています。

全くもって嫌な性格ですが、そうすることで脱ストレスが図れているのかなと思う今日この頃です。

## 男性の介護。女性とは違った大変さと思う

▼広島県 Aさん（女性）・祖父、姉を介護

これまでの介護、今の介護、これからの介護…自分と介護は切っても切れない関係です。長く続く介護だからこそ、気楽にと思つてはおりますがなかなかそうもいかないのが介護ですね。男性が介護されているのをみるにつけ、女性とは違った問題や課題、大変さがあるだろうと常々思っております。しかし、

これからは男性が介護をすることも多くなりますよね。とても関心のあることでしたので、参加させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

## 介護体験記を参考に

▼香川県 Tさん・母を介護中

高松の特養内で開かれている男性介護の会の案内で、今日、先生の講演を聞きに、丸亀へ行ってきました。

要介護1ですが、2でもOKとか！車で五分の母屋に一人暮らしさせております。できるだけ、自立生活してもらうため、周辺のヘルプ（通院、薬管理、ゴミ分別、ゴミ出し、お金管理等）だけやっております。食事は、本人が近くのココンビニで弁当購入。

とり合えず、介護体験記を読んで、参考にしたいと思ひ、入会いたします。

## 経験や考えを教えて

▼石川県 Yさん・父を介護中

思いを抱え込み、硬直的に考えてしまうため悲観的になりま

す。また、医療と福祉、在宅と施設介護の狭間に在るため、既存のサービスとのミスマッチが感じられます。貴会の会員各位の経験や考え方をお教えいただきたく入会いたします。

## テレビ見ました

▼神奈川県 S・Mさん

脳梗塞で倒れた妻（七二）を自宅で介護を始めて五カ月たちました。訪問看護やヘルパーの助けを得ながら、何とかやっていけるかと思つていましたが、自宅介護の重圧でだんだん自信も揺らいできました。そんな矢先、五月一五日のNHKの放送「リハビリ・介護を生きる」を見て、同じように男性で介護に苦労している方が多いことを知り、連帯感を覚え、勇気づけられました。皆様のご苦勞や、工夫を知りたいと思ひ参加しました。





# 俺流の介護



皆さんの介護体験から生まれた  
十人十色の介護ノウハウの  
共通コーナーです

里村 良一

「認知症の人と家族の会」岐阜県支部

## 介護の仕方は介護される人とする人の それぞれの関係

介護の仕方は介護される人と介護する人のそれぞれの関係、例えば夫婦、親子、祖父母また在宅、施設等いろいろな要因が絡み合っており、百人いれば百通りの介護の形があるのですが、私個人としては現在次のような介護の在り方に専念しています。

家内は現在グループホームにお世話になっており、介護度5で身辺の自立はゼ口、言葉はゼ口に近い、食べ物はミキサー食、車椅子に掛けているがベッドに横たわっているという状態ですが、

(一) 一日一回は必ず訪問する。外見上本人は何も分かっていないように見えるけれど私の来るのを待っている。

(二) 訪問する前にはいろいろな雑念を整理して平静な気持ちで訪問する。

雑念(例えば他の仕事があり今日は訪問するのが嫌だな!という気持ち)を持って訪問すれば家内の表情も穏やかでなくなる。それほど彼女の心(精神)は研ぎ澄まされている。

(三) 昼食か夕食の介護を中心に訪問しているのですが、食事中、私が他の人(例えば民生委員のような方が訪問して下さって)との話に気を取られていると、食事を上手に食べてくれないので、食事中は食べさせることに集中する。

(四) 毎日一時間半ほどの訪問

ですが、その時間はひたすら彼女の事だけを思っ  
て行動する。

アルツハイマー型認知症最重度の状態ですが彼女の心(精神)は赤子のように純真で無垢な状態です。家内の心が平穏で穏やかであれば、私も平穏で穏やかに生活出来ます、そしてそのような現象は相互に通じ合い響き合う事を実感している昨今です。

### ●書籍の紹介

里村良一さんは、昨年上梓された著書「しあわせの授業―認知症の妻が教えてくれたこと―」を、総会に参加



した会員に贈呈してくださいました。

この本は、里村さんが10数年前に認知症を発症した妻を介護してきた体験記です。夫婦ゆえかの、嫉妬や性についても赤裸々につづられています。壮絶な介護ですが、そんな中でも人のこころは、介護する人の気持ちで変化し、合わせ鏡のように呼応しています。読み進むにつれ、人が愛おしくなり、しあわせはすぐそばにあると実感した本でした。

(副代表 鎌田松代)



## オムツの選び方

今月のアドバイザー

訪問看護師

松村美枝子さん

### 1 オムツとは

オムツ利用者の多くは、寝たきりなど身体機能が低下した状態でトイレやポータブルトイレの利用が困難な方や、尿意（おしっこがしたいと感じ、少しでも我慢できる）、便意（ウンチがしたいという感覚がわかる）がなく失禁（漏れてしまう）状態だったり、失禁するかもしれない時の保険として使われます。

### 2 種類

オムツの種類は2種類、①テープ止めタイプと②パンツ型ですが、尿取りパッドを併用することが一般的です。また、普通に生活している方が軽い失禁対応のために使われる失禁用パッドも排泄援助用品として知っておきましょう（こちらは、また次の機会に！）。今回は、①テープ止めタイプと②パンツ型についてお話ししましょう。

#### (1) テープ止めタイプ

尿意や便意がなく寝ていることが多い方用でお

むつカバー的な使い方をします。サイズはMとLがあり下着のサイズとほぼ一緒ですが、業務用ならSサイズもあります。一回の尿量やオムツ交換回数によって尿取りパッドを併用します。尿取りパッドは、対応吸収量の表示がおしっこ一回〜二分や五回分、九回分など回数で表示されていることが多いのですが、メーカーのほとんどは一回分を一五〇ミリリットルで計算しています。業務用では、二リットルくらい吸収する大型のパッドもあり、夜オムツ交換をすることなく本人も介護者もぐっすり眠ることができます。テープ止めタイプは、尿取りパッドを選んで使うことがコツです。

#### (2) パンツ型（リハビリパンツ）

リハビリパンツと呼ばれることもあるパンツ型のオムツです。ベッドから離れて生活できる方用で、尿意や便意はあるがトイレまで間に合わない方やオムツ交換時に立位が取れる方に利用されます。薄く目立たないおしっこ一回〜二分用や厚手の長時間用、片手で履きやすい工夫がされているものもあります。サイズは、MとLがありますが、業務用ならSがあります。サイズの選び方は、下着のサイズと同じですが、お腹周りより、漏れやすい足の付け根の太さを参考にしてください。パンツ型にも尿取りパッドを併用することができます。パンツ型専用の尿取りパッドも市販されていますが、パンツ型だけで利用したほうが、足

の付け根からの漏れも少なく座り心地が良いです。汚れた場合は、前と後ろを結合している横の部分を下から左右に引っ張ると剥がれるので、ズボンを脱がなくても外すことができます。しかし新しい物を装着するためには、ズボンを脱がなくてはなりません。

### 3 どのオムツを使うか

オムツや尿取りパッドを選ぶには、日中の排尿回数、夜間の回数や一回の尿量、尿意や便意があるかが参考になります。二日間くらい排泄の記録をつけてみましょう。

### 4 購入方法や相談

薬局・ドラッグストア・介護用品店で購入できます。業務用は介護用品店で購入できます。またインターネットや宅配業者で箱買いすると安く買えます。自治体では、購入費用の助成をしていますので市役所で聞いてみるか、ケアマネや地域包括支援センターに相談してみましょう。

オムツの各メーカーが、電話相談を行っています（インターネットやパッケージに記載）。悩んだら、買う前に電話で相談しサンプルを送ってもらいましょう。無料のサービスです。







**長野**

シルバーバックの会 ● 男性介護者ミーティング → 上田市地域包括支援センター / ☎ 0265-73-6610

**東京**

荒川区おやじの会 ● 男性介護者サロンM → 荒川区社会福祉協議会内 / ☎ 03-3802-3338

**静岡** 毎月第3・(火)

男性介護者のつどい ● 静岡市女性会館 / ☎ 054-248-7330 (担当: 谷直子)

**京都** 毎月第2・(木) 11:30 ~ 14:00

男性介護者を支援する会 ● 男性介護者のつどいTOTO → 喫茶「ほっとはあと」(西大路御池西北側) / ☎ 075-882-2256 (代表: 山内輝昭)

偶数月第1・(土) 13:00 ~ 15:30

認知症の人と家族の会京都府支部 ● 男性介護者のつどい → 京都社会福祉会館 / ☎ 075-811-8399

**大阪** 毎月第4・(水) 13:30 ~ 15:30

住吉区地域包括支援センター ● ほっこりサロン ~ 男性介護者のつどい → 住吉区民セン

ター・図書館棟2F集会室1 / ☎ 06-6692-8803 (担当: 小林・藤岡・松原)

**滋賀** 毎月第4・(火) 10:30 ~ 15:00

認知症の人と家族の会滋賀県支部 ● 野洲市中北「かずさんち」 / ☎ 080-3797-4530 (小宮)

**兵庫** 毎月第4・(金) 13:30 ~

宍粟市男性介護者の会 ● 男性介護者のつどい → 宍粟防災センター会議室 / ☎ 0790-62-5530

毎月第4・(金) 10:00 ~

三田市社会福祉協議会 ● 男性介護者のつどい → 三田市福祉センター / ☎ 090-1136-5033 (担当: 竹中)

毎月第2・(金)

たつの男性介護者の会 ● 男性介護者のつどい → たつの市社会福祉協議会 / ☎ 090-2215-3913 (担当: 神尾)

**岡山** 毎月第3・(日)

男性介護者支援団体「じっくり聴かせて」 ● 男性介護者のつどい / ☎ 090-1682-9479 (久奥)

**長崎** 偶数月第2・(火)

認知症の人と家族の会長崎県支部 ● させぼ市民活動交流プラザ / ☎ 095-842-3590



**募集**

男性介護通信では「つどい」情報をお待ちしています。



全国の男性介護者の集いの情報を募集しています。過去のつどいの実績やこれからの予定など下記アドレスまでお知らせ下さい。通信とホームページに掲載いたします。

E-mail: info@dansei-kaigo.jp

- ①都道府県、②日時、③名称→場所、④連絡先をお書き下さい。

各都道府県で複数ある場合は日付の古い順でご記入下さい。

## WAM(福祉医療機構)助成事業(平成25年度) 「ケアメンサミットJAPAN」の関連イベント案内

男性介護者は主たる介護者の3割を占め、その数はもう100万人を超えています。今回WAMからの助成を受けて行う事業は同じ立場にある男性介護者のコミュニティを全国に広げていくことを目的に、ケアメン・グループ(男性介護者組織)の関係者に呼び掛けて、まずは一堂に会し心をつなげて推進していくというもの。志太く「ケアメンサミットJAPAN」と題しました。当面決まっているイベントは右記の通りです。内容・会場等の詳細は別途広報しますが、まずは日程のみお知らせします。皆様のご参加をお待ちしております。

INFORMATION

- ★「ケアメンサミットJAPAN(I)―介護退職ゼロ作戦2013―」: 2013年11月16日(土)夜~17日(日) 午前・午後、京都市
- ★「ケアメンサミットJAPAN(II)―男性介護ネット5周年記念式―」: 2014年3月8日(土)夜~9日(日) 午前・午後、京都市
- ★「男性介護ネット九州ブロック交流会―プレ・ケアメンサミット―」: 2013年10月20日(日) 午後、福岡市
- ★「男性介護ネット全国交流会―プレ・ケアメンサミット―」: 2013年10月26日(土) 午後、長野県上田市

### 会員のみなさまへ寄付のお願い

男性介護ネットは、発足3年目で会員数600名を超える団体へと飛躍的に拡大しました。今後もより積極的な活動を進めていきたいと考えております。ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。会費納入と併せて寄付にもご協力いただければ幸いです。

■会員の種別と年会費

正会員(個人)	正会員(団体)	賛助会員
一口1,000円	一口3,000円	一口10,000円

■振込先 郵便局 00910-4-194420  
男性介護者と支援者の全国ネットワーク

NHKの最新番組「リハビリ・介護を生きる」に出演した。第1回が「介護と仕事の両立は?」、第2回が「ケアメンを支援するために」を主題とした。男性介護ネットのテーマでもあるので、テーマに該当する会員にも取材協力をお願いした。東京では荒川オヤジの会の例会風景、荒川代表の元気な様子も映った。伊藤金政さん、塚田一弘さん、安永明生さんから男性介護者ネット会員の介護も詳しく紹介された。咳き込みの激しい風邪をひいたちょうどその時に録画が重なったのでどうなるやら、と焦ったが、いつもの声ではなかったですね、とお見舞いも頂いて嬉しかったです。その直後から、今度は頸椎症を患った。病氣自慢が続く今日この頃。皆さんはいかがですか? ご自愛ください。(津止正敏)

後編集

Vol.10

